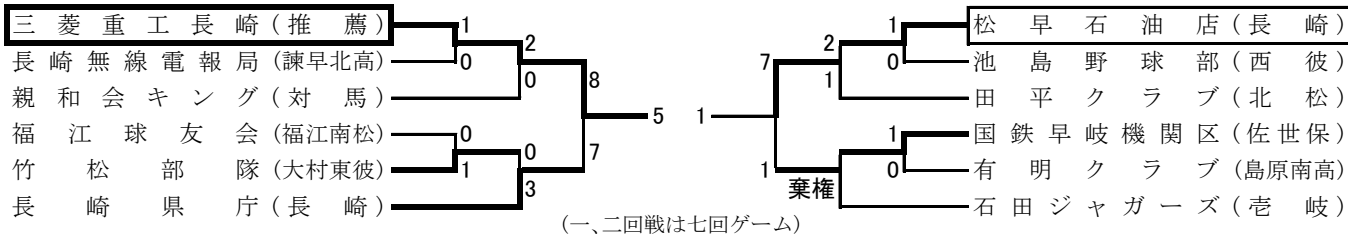


長崎同士(松早石油店)の決勝戦を制して6連覇の三菱重工

第22回長崎県下軟式野球選手権大会

会期 昭和47年11月3日(土)～4日(日)

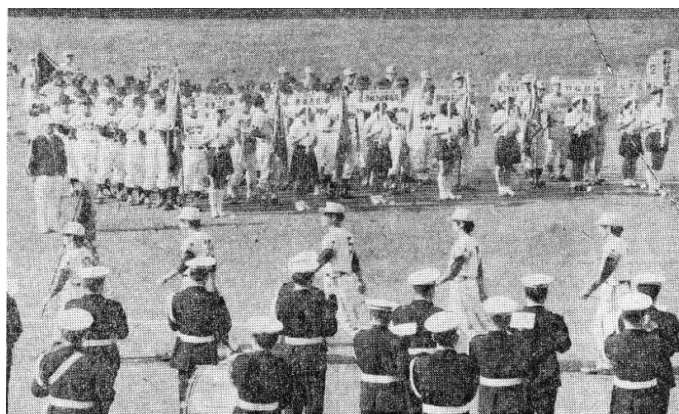
会場 A・長崎市宮大橋球場 B・三菱球場



第22回県軟式野球選手権大会は三日午前9時から大橋球場で行った開会式で開幕。早朝まで前夜来の雨が残り開幕が心配されたが開会式前には青空がのぞく天気となり試合日程の一部を変更しただけで大会はほぼ予定通り進められた。

大橋球場での第1試合は前年度優勝の三菱重工が長崎無線電報局に大苦戦し延長12回で辛勝。三菱は第3試合の親和会キング戦も相手守備陣の乱れもあってベスト4に進出。長崎県庁は第2試合で福江球友会を破った竹松部隊と第4試合目で対戦し延長にもつれ込んだが9回に3点を挙げ突き放した。

三菱球場の第1試合も延長となったが延長8回松早石油が1点あげ池島鉱業所に競り勝った。第2試合は国鉄早岐機関区が有明クラブの金子投手に打線が沈黙し押され気味だったが延長10回敵失に恵まれて勝ちを拾った。国鉄早岐は石田ジャガーズが棄権したため準決勝に進出した。第3試合の松早



石油と田平クラブは同点の7回に松早がスクイズを決めて辛勝した。(昭和47年11月4日付けの長崎新聞より抜粋)

小山が好投

長崎無線打線を押える

【一回戦】=大橋:第1試合=

三菱重工長崎	000 000 000 001	1	1	2	0	1	2	3	0
長崎無線電報局	000 000 000 000	0	7	3	1	0	0	3	0

(延長12回。11回から継続試合) 1時間47分

【二】井戸口、森崎

【評】三菱が勝ちましたもののさっぱり精彩がなかった。さして威力があるとも思えぬ無線の大塚から奪った安打は僅か4本。ポンポンと無造作に打って出て、いつものキメ細かな攻撃は影を潜めていた。

やっと継続試合後の12回二死から岩崎が歩きすかさず二盗。ここで森崎が左中間を深々と破って決勝点。これでなんとか面目を保った。

これに対し無線局は前半、三菱のエース小山に食い下がった。特に四回二死一二塁と攻め寄ったが後続なく、モノに出来なかったのは痛かった。それ以後はシリ上がりに調子を上げてきた小山に快音が出ずついに力尽きた。

【三菱】打安点

⑤橋本	4 0 0
④岩崎	4 0 0
⑥森崎	5 1 1
②井戸口	5 1 0
⑧野原	4 0 0
③谷平	4 0 0
⑨田原	4 1 0
①小山	4 1 0
⑦中村	4 0 0
38 4 1	

【無線局】打安点

③内川	5 1 0
④9飯田	4 0 0
⑧田村	5 1 0
①大塚	3 0 0
⑥湯浅	3 0 0
H岩井	1 0 0
6入江	0 0 0
⑤野田	4 0 0
②大石	3 0 0
⑦杉本	3 0 0
⑨川上泰	1 0 0
H9川上明	1 0 0
H9藤田	1 0 0
H4溝上	1 0 0
35 2 0	

【福江】打安点

⑤貞方学	2 0 0
⑦才津	3 0 0
⑧茂	2 0 0
⑥岩下	2 1 0
②田端	3 0 0
④貞方泰	3 0 0
③井川	2 0 0
⑨畑中	3 0 0
①布袋	2 0 0
22 1 0	

安藤、福江を完封

【一回戦】=大橋:第2試合= 振球犠盗併残失

福江球友会	000 000 0	0	3	5	0	1	0	6	0
竹松部隊	100 000 X	1	4	3	0	0	0	5	1

1時間16分 【二】石丸

【評】竹松が立ち上がりソツない攻撃で1点をあげ安藤が福江打線を1安打に完封し逃げ切った。竹松は初回一死後石丸が四球で歩くと麻生が三塁内野安打で一二塁。4番の松尾が三振に倒れたあと松本がうまく左中間に打って先取。

この1点リードを安藤がガッチリ守り抜いた。立ち上がりこそ制球が悪く一二回と四球走者を出して苦しんだが、後続をうまく打ち取って調子を上げた。また六回一死後に四球走者を二盗と捕逸で三進させたが次打者とのスクイズを内野手がうまく守り切って完封勝ちをした。

【竹松】打安点

⑥田中	3 0 0
④石丸	2 1 0
⑤麻生	3 1 0
⑦松尾	3 0 0
⑨松本	1 1 1
H9江藤	1 0 0
③八谷	3 0 0
②中尾	1 0 0
⑧永井	2 0 0
①安藤	2 0 0
21 3 1	

【松 早】 打安点

④ 松 尾	4 0 0
⑧ 松 添	4 0 0
③ 酒 田 兄	4 3 0
⑦ 岩 本	4 1 1
⑨ 大 塚	3 0 0
① 町 田	2 0 0
② 酒 田 弟	3 1 0
⑤ 橋 本	3 2 0
⑥ 平 井	2 0 0
<hr/>	
	29 7 1

延長8回、松早勝つ 池島町田のカーブに泣く

【一回戦】 = 三菱: 第1試合 = 振球犠盗併残失 (延長8回)

松早石油店	000 000 01	1	1	3	1	5	0	8	0	1時間21分
池島野球部	000 000 00	0	6	3	0	0	0	4	0	

【二】 須藤、岩本

【評】 0-0で迎えた延長八回の松早は一死後に安打で出た酒田兄が二盗に成功し岩本の左越え二塁打で決勝点を挙げた。だがそれまでの松早は再三チャンスを迎えながらも福浦投手のコーナーをつく慎重なピッチングに一発が出ず得点に結び付けなかった。

この点福浦としては好投していた訳だが八回には力尽きた感じ。それにしても池島打線は松早の左腕町田のカーブが打てず須藤の二塁打1安打だけでは勝ち目も薄かった。

【池 島】 打安点

⑦ 面 崎	4 0 0
② 須 藤	3 1 0
④ 田 中	2 0 0
③ 花 田	2 0 0
⑨ 山 田	3 0 0
⑥ 鈴 木	2 0 0
① 福 浦	3 0 0
⑤ 白 浜	3 0 0
⑧ 辻	2 0 0
H 大 始 良	1 0 0
<hr/>	
	25 1 0

【国 鉄】 打安点

⑤ 福 田	4 0 0
⑥ 東 島	4 0 0
① 杉 本	4 2 0
⑧ 坂 口	4 0 0
⑦ 小 島	4 0 0
④ 梶 川	4 1 0
③ 吉 田	3 0 0
⑨ 池 田	3 0 0
② 森	3 1 0
<hr/>	
	33 4 0

有明、エラーで自滅 好投の金子を見殺し

【一回戦】 振球犠盗併残失 (延長10回)

国鉄早岐機関区	000 000 000 1	1	7	0	0	0	0	2	3	1時間42分
有明クラブ	000 000 000 0	0	3	6	1	4	0	9	3	

【二】 吉田正、本多

【評】 押し気味に試合を進めていた有明が失策を連続して足をすくわれた。延長十回の国鉄は先頭の杉本が中前打。続く坂口の三塁ゴロは併殺をあせった有明の竹之内の二塁悪送球で無死一二塁。打者小島の時、本多の捕逸がありさらに返球が逸れ二塁前に転々とする間に杉本がホームベースにかけ込んだ。有明もその裏二死二三塁と一打逆転サヨナラの好機を迎えたが4番吉田富が投飛に倒れて万事休した。

それにしても有明は再三走者を出しながら決定打を奪えず、国鉄打線をわずか4安打に押える好投を見せた金子に報いることが出来なかった。



ホームイン 延長10回表、国鉄は相手捕手のダブルエラーで杉本決勝の生還

【有 明】 打安点

⑥ 吉田正	4 1 0
① 金 子	2 0 0
⑦ 吉田浩	4 0 0
⑧ 吉田富	5 0 0
⑤ 竹之内	4 1 0
③ 高 見	4 0 0
⑨ 酒 井	3 0 0
② 本 多	4 3 0
④ 稲 田	2 0 0
<hr/>	
	32 5 0

【親和会】 打安点

⑧ 緒 方	3 1 0
① 島 居	3 2 0
③ 三 山	3 0 0
④ 庄 司	3 0 0
⑦ 財 部	2 0 0
H 安 部	1 0 0
⑨ 橋 本	2 1 0
⑤ 長 郷	2 0 0
② 佐 伯	2 0 0
⑥ 園 田	2 0 0
<hr/>	
	23 4 0

精彩さ欠く三菱重工 親和クの乱れで勝ち点

【二回戦】 振球犠盗併残失

親和会キング	000 000 0	0	2	0	0	0	1	2	2	1時間15分
三菱重工長崎	100 001 X	2	1	6	0	4	1	7	0	

【三】 谷平

【評】 立ち上がり堅くなった親和クの島居の制球難に乗じて連続4個の四球で1点先行した三菱は六回にも親和ク守備陣の乱れで拾い物の1点を加え勝負を決めた。だが打力不振に加え、四回無死三塁打の谷平を迎え入れることが出来ないなど、試合運びも今年の国体出場チームで本大会6連覇を狙う三菱重工にしては少しもピリッとしたところがなかった。

親和会キングは三菱重工の安打を上回る4安打を記録したが、いずれも散發で完封された。

【三 菱】 打安点

⑤ 橋 本	3 0 0
④ 岩 崎	2 0 0
⑥ 野 原	2 0 0
② 井 戸 口	1 0 0
③ 谷 平	2 1 1
① 森 崎	3 0 1
⑧ 田 原	3 0 0
⑨ 岩 本	3 0 0
⑦ 中 村	2 1 0
<hr/>	
	21 2 2

【県庁】打安点

⑨橋口	3 0 0
④6野田	4 1 0
⑧坂口	4 1 0
②浜村	2 2 2
③芦塚	4 1 1
⑦島	2 0 0
H山口	1 1 0
R7小川	1 0 0
⑤原	3 0 0
⑥宿輪	3 0 0
H6神崎	1 0 0
①山内	3 0 0
31 6 3	

浜村、満塁に快打 延長 9回 県庁打線が爆発

【二回戦】 振球犠盗併残失

長崎県庁	000 000 003	3	2	4	0	2	0	5	0
竹松部隊	000 000 000	0	4	3	1	0	1	4	0

1時間25分

【二】浜村

【評】竹松の安藤にすっかり手を焼いていた県庁打線が、延長九回にそれまでのうっ憤を晴らすかのように火を噴いた。先頭の橋口が選んで出塁。続く2打者の送りバントがいずれも内野安打となり無死満塁に4番浜村の左中間二塁打で2点。芦塚にも中前適時打が出て計3点。またエースの山内もキレのよいカーブで竹松を2安打に完封した。

これに対し竹松は安藤の好投が光った。早いテンポで県庁打線の目先を変え、しかもコーナーいっぱい揺さぶってつけ入るスキを与えなかった。延長に入って一回戦からの連投の疲れからか惜しくも敗戦した。

【竹松】打安点

⑥田中嘉	2 1 0
④石丸	3 0 0
⑤麻生	4 0 0
⑦松尾	3 0 0
⑨江藤	1 0 0
H9松本	2 0 0
③田中浩	2 0 0
H3八谷	1 0 0
②中尾	3 1 0
⑧永井	3 0 0
①安藤	3 0 0
27 2 0	

【松早】打安点

④松尾	3 0 0
⑧松添	4 1 0
③2酒田兄	4 2 0
⑦岩本	4 2 1
⑨3大塚	3 0 0
①増丸	3 0 0
②酒田弟	0 0 0
9町田	2 0 0
⑤橋本	1 0 0
⑥平井	3 0 0
27 5 1	
【田平】打安点	
④田川	3 1 0
⑤近藤	3 2 0
⑥中村	2 0 0
⑧島本	3 1 1
⑦柴山	2 0 0
③友永	3 0 0
②山下	2 0 0
⑨岩佐	2 0 0
H大坪	1 0 0
①山崎	3 0 0
24 4 1	

スクイズで決勝点 松早石油 田平クを突き放す

【二回戦】 振球犠盗併残失

松早石油店	100 000 1	2	1	4	1	4	1	9	1
田平クラブ	000 001 0	1	5	2	1	1	0	5	3

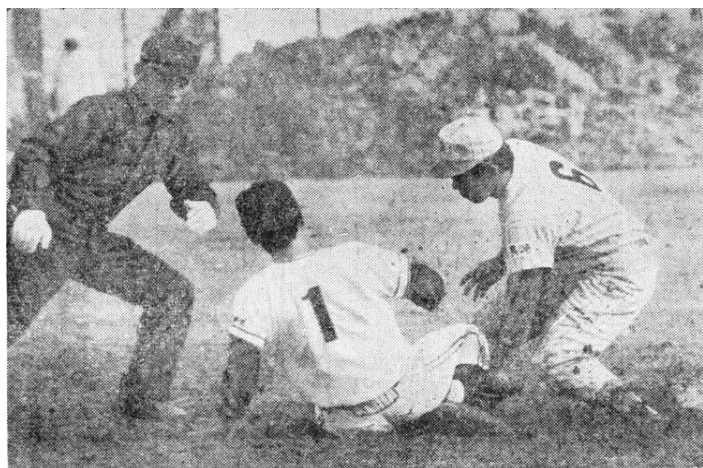
1時間40分

【三】酒田兄

【評】松早石油は一回戦同様、坂田兄と岩本の3、4番コンビで決勝点をもぎ取った。

初回の松早は先頭が四球出塁するとすぐ二盗。松添のバントヒットで一三塁にすると、ダブルスチールを敢行して成功。幸先よいスタートを切ったが、その後はモタモタした攻撃ぶり。それでも立ち上がりは危なかった増丸が二回以降は立ち直っていたので、この先制点が決勝点になるかと思われていた。だが田平クラブは六回に島本の幸運な内野安打でタイとした。

しかし、七回に打線が上位に回った松早は左越え三塁打の酒田兄を岩本のスクイズ(安打)でかえして追いつける田平クを突き放した。田平クラブにとって惜まれるのは最終回に松早守備陣の乱れに乗じてつかんだ無死一二塁の反撃機を併殺で逸した事だった。



タッチアウト 3回裏、田平クラブの田川(背番号1)が二盗を試みるも失敗。タッチするのは平井遊撃手。

★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★ - ☆ - ★

野球日和に恵まれた第22回県軟式野球選手権大会最終日は、4日午前9時から大橋球場で準決勝、決勝の3試合を行った。第1試合では長崎県庁が三回に大量5点をあげて優位にたったが、三菱重工長崎がその裏に相手投手の乱れにも乗じて一挙6点を入れ、逆転。さらに1点リードされた八回には田原の本塁打で追いつき、延長戦へともつれ込んだ。三菱は延長11回、押し出しで決勝点をあげケリをつけた。第2試合は松早石油店が三回に松尾の三塁打などで2点をあげたのをはじめ以後も着々と加点し町田一酒田兄のリレーで国鉄早岐機関区の反撃を1点に抑え決勝戦に進んだ。決勝戦は松早石油が大塚の本塁打で同点に追いつき試合を面白くしたが、三菱重工は六回に谷平の適時打で再びリード。七回には集中打で決定的な3点を加え、五回からリリーフした小山が松早打線をピタリ押さえ大会史上初の6連覇の偉業を達成した。(昭和47年11月5日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

県庁、投手陣で自滅 三菱重工 効いた田原の第1号

【県庁】打安点

⑨橋口	5	1	0
④野田	4	2	1
②6引地	4	2	1
⑧浜村	5	1	1
③芦塚	4	1	0
①山口	2	2	3
1山内	2	0	1
⑥宿輪	2	0	0
2川野	3	0	0
⑤原	5	1	0
⑦島	5	1	0
<hr/>			
	31	11	7

【準決勝】 2時間48分 振球犠盗併残失

長崎県庁	005 000 020 00	7	6	2	2	2	1	5	0
三菱重工長崎	006 000 010 01x	8	6	12	2	3	0	6	0

(延長11回) 【本】田原 【二】山口 【二】山口、野田、森崎
 【評】三菱・田原の本塁打で延長戦にもつれ込んだが幕切れはあ
 っけなかった。11回の三菱は先頭から連続四球。川上のバントで
 二三塁となったところで県庁は満塁策。野原が三振のあと岩崎が
 四球押し出しでサヨナラ。
 それにしても県庁の投手陣は不甲斐なかった。三回に見方打線
 が5本の長短打を集めて5点をもぎとってくれたのにこれを守れ
 ない。その裏に四球を連発、おまけに暴投まで加わって2安打で
 6点を献上して簡単に逆転を許してしまった。また八回にも浜村
 の適時打と山内の犠飛で逆転したのも束の間、その裏に山内が二
 死を取りながら田原に甘い内角へ棒ダマを投げて左翼席に打ち込
 まれて同点とされた。

県庁は楽勝の試合を投手陣の自滅で失った。

【三菱】打安点

⑤橋本	3	1	1
⑧68野原	6	0	0
④岩崎	5	0	0
②井戸口	5	1	3
③谷平	4	0	0
⑥16森崎	4	1	1
⑨879田原	3	1	1
①91小山	2	0	0
⑦中村	0	0	0
7867川上	2	0	0
<hr/>			
	34	4	6

【松早】打安点

④5松尾	4	1	1
⑧松添	3	0	1
H8山崎	0	0	0
③21酒田兄	4	1	0
⑦岩本	4	0	0
②9酒田弟	3	0	0
H9増丸	2	0	0
①3町田	4	1	2
⑨32大塚	4	1	1
⑤橋本	1	0	0
4宮永	3	2	1
⑥平井	3	1	0
<hr/>			
	35	7	6

松早、 早岐左腕町田を打てず ワンサイド

【準決勝】 2時間6分 振球犠盗併残失

松早石油店	002 011 021	7	2	7	0	5	0	8	1
国鉄早岐機関区	000 000 100	1	9	3	0	1	0	6	4

【三】松尾、梶川 【二】酒田兄、宮永2、大塚

【評】早岐が先取点をあげれば面白かったこの試合も松早
 が先手を取っては一方的なペース。松早は三回に一死から
 四球と松尾の三塁打でまず1点。松添の投ゴロで松尾が好
 走生還して2点をもぎ取った。五回と六回に1点ずつ加え
 たあと、七回には大塚、宮永の連続二塁打で2点。九回も
 押し出し点で完全にとどめを刺した。
 一方の早岐は六回まで松早先発の左腕・町田の変化球に
 バットが合わずわずか2安打。やっと七回に代わった酒田
 兄に梶川が右線二塁打。吉田の三ゴロで還した1点だけ。
 八、九回に走者を出すも後続なく決勝進出の夢を絶たれた。

【国鉄】打安点

⑤福田	4	1	0
⑥東島	3	0	0
①杉本	3	2	0
⑧坂口胖	4	0	0
⑦小島	4	1	0
④梶川	3	1	0
H坂口隆	1	1	0
③吉田	4	0	1
⑨池田	2	0	0
H9富永	2	0	0
②森	2	0	0
<hr/>			
	32	6	1

天皇賜杯第27回全日本軟式野球大会【51チーム】
 (S47.8.5～・栃木県宇都宮市ほか)
 親和銀行【二】 8-10 秋田信用農協連合会

常陸宮賜杯第8回全日本準硬式野球大会【52チーム】
 (S47.6.3～・兵庫県神戸市ほか)
 親和銀行【一】 1-5 鷲宮製作所狭山(埼玉)

第27回鹿児島国体【30チーム】10.23～
 三菱重工長崎【一】 1-3 秋田信用農協連合会

第24回長崎県民体育祭 (6/3～佐世保)
 【準決勝】 長崎 4-0 東彼杵
 松浦 1-1 諫早
 抽選
 【決勝】 長崎 4-3 松浦

高松宮賜杯第16回全日本【16チーム×2】は不出場
 ※これで3年連続、長崎県からの参加なし※

昭和47年の夏休みから長崎県少年軟式野球選手権大会の中学の部と学童の部が始まる。

さすが勝負強い三菱重工

6連覇の偉業達成

七回、勝利の集中打 救援小山、松早押える

【松 早】打安点

⑧ 松 添	2	1	0
⑤ 松 尾	3	0	0
② 酒田兄	3	0	0
2 酒田弟	0	0	0
④ 宮 永	4	0	0
⑦ 岩 本	3	0	0
H 山 崎	1	0	0
③ 大 塚	4	1	1
⑨ 橋 本	3	0	0
⑥ 平 井	3	1	0
① 増 丸	2	1	0
1 町 田	0	0	0
28 4 1			

【決勝】 1時間45分 振球犠盗併残失

松 早 石 油 店	000 100 000	1	4	2	2	0	0	5	0
三 菱 重 工 長 崎	100 001 30X	5	3	3	2	0	0	5	0

【三 菱】打安点

⑤ 橋 本	4	2	1
⑨ 田 原	4	2	2
9 岩 本	0	0	0
④ 岩 崎	3	1	1
② 井 戸 口	3	0	0
③ 谷 平	3	1	1
⑥ 森 崎	4	0	0
⑦ 中 村	1	0	0
1 小 山	3	1	0
⑧ 7 川 上	1	1	0
① 8 野 原	3	1	0
29 9 5			

【本】大塚 【二】岩崎、橋本

【評】決勝戦ともなると、三菱重工はさすがに勝負強い。前日の一、二回戦とは見違えるような意欲を見せた。

まず初回、二塁に橋本を置いて岩崎が左翼フェンスに直接ぶつける二塁打で先行。四回に松早6番の大塚の大会2本目の本塁打で追いつかれたが、六回にすかさずリードした。この回、先頭の田原が投手の足元を抜いて中前に打ち返した。手堅く送った一死二塁に期待の井戸口は見送り三振に倒れたが、続く谷平がファウルでさんざん粘ったあげく三塁頭上をライナーで破って勝ち越し点。勢いに乗った三菱重工は次の七回にも小山の中前打を足掛かりに野原の三塁強襲安打、橋本の二塁打、田原の左前打とたたみかけて決定的な2点を奪った。

三菱重工は野原を先発に送ったが、四回に本塁打で同点に追いつかれると、五回からはエース小山をマウンドへ。小山はカーブをうまく使ってはやる松早打線を料理。五回以降は1安打を許しただけで悠々逃げ切った。

これに対し松早は、三回二死満塁の好機をつかみながら、悪球に手を出してモノに出来なかったのが最後まで響いた。また疲れの見える町田に未練を持ち過ぎ、投手リレーが一步遅れて傷口を大きくした。



三菱7回表、田原の左前打で二塁から橋本が生還し5点目

【表彰選手】

- ◇首位打者賞
酒田正二(松早)
- ◇敢闘賞
野原富安(松早)
町田智彦(三菱)
- ◇本塁打賞
田原紘行(三菱)
大塚好則(松早)

【三菱重工長崎6連覇の戦績】

第17回(S42年)	第18回(S43年)	第19回(S44年)	第20回(S45年)	第21回(S46年)	第22回(S47年)
9-2 平戸クラブ	4-0 盟友クラブ	1-0 諫早クラブ	4-0 池島鋳業所	10-0 池島鋳業所	1-0 長崎無線局
2-0 東芝炉材川棚	3-0 諫早クラブ	12-0 富江クラブ	3-0 全敵原	3-0 壱岐スターズ	2-0 親和会キング
1-0 長崎県庁	7-0 親和銀行	4-0 有明クラブ	2-0 神戸発動機	2-1 親和銀行	8-7 長崎県庁
		3-0 長崎県庁	6-0 福江球友会	4-1 長崎県庁	5-1 松早石油店

【日本冷熱工業5連覇の戦績】 = 第3回大会から第15回大会の13年間は、準硬式球を使用 =

第11回(S36年)	第12回(S37年)	第13回(S38年)	第14回(S39年)	第15回(S40年)
13-0 長崎刑務所	9-1 澱粉クラブ	11-1 西肥バス	3-1 親和銀行	7-0 加津佐クラブ
4-3 日鉄北松	3-2 佐世保市役所	5-2 高島鋳業所	6-2 第一養魚クラブ	10-0 マルヤマ醤油
7-1 長崎機械工具	6-1 長崎機械工具	5-0 澱粉クラブ	4-2 九電工佐世保	3-1 九電工佐世保